

11 月例会「奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ」

15 周年記念特別例会終了お礼

15 周年記念 3 連続特別例会終了お礼

今年度は、15 周年記念事業として、ふだんは、会員対象の映画鑑賞会である例会を、一般の方も有料で観ることができる特別例会の形式で 3 回続けて行いました。

有料で一般を対象とする上映会を実施することは、会の目的である優れた映画を鑑賞することでの交流を行うことから逸れていくことにつながりそうで、また、会場費やソフト賃料が高額になるなどことなどもあり、慎重に行ってきました。今年度は、会員の減少のため、会費収入だけでの鑑賞会を行うことが次第に困難になってきたこと、また、新たな可能性を模索するため、6 月 6 日に『ベトナムの風に吹かれて』、8 月 3 日に『この世界の片隅に』、9 月 13 日に『湯を沸かすほどの熱い愛』を特別例会として実施しました。結果は、会員数に変化は無く、参加会員はわずかに増加し、収支は通常の例会より少し収入が多かった。ということで、大きな成果はありませんでしたが、小さな成功ではありました。収支については、詳細は年度末の決算で報告します。

会員の皆様には、特別例会の実施にあたり、チラシの配布やクチコミなどご協力いただきましたこととお礼申し上げます。

例会のお知らせ

■名称／第 93 回例会『奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ』

■日時／11 月 16 日(木)

①PM 2:00—、②PM 4:20—、③PM 6:40—

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ

■監督／マリー=カスティュー・マンシヨン=シャル

■出演／アリアヌ・アスカリッド、アハメッド・ドウラメ、ノエミー・メルラン、ジュヌヴィエーヴ・ムニツフ、ステファヌ・バク

■データ／2014 年、フランス、105 分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■ストーリー／貧困層が暮らすパリ郊外のレオン・ブルム高校の新学期。様々な人種の生徒たちが集められた落ちこ



ぼれクラスに、厳格な歴史教師アンヌ・ゲゲンが赴任してくる。

「教員歴 20 年。教えることが大好きで退屈な授業はしないつもり」と言う情熱的な彼女は、歴史の裏に隠された真実、立場による物事の見え方の違い、学ぶことの楽しさについて教えようとする。だが生徒達は相変わらず問題ばかり起こしていた。

ある日、アンヌ先生は、生徒たちを全国歴史コンクールに参加するように促すが、「アイシュヴィッツ」という難しいテーマに彼らは反発する。ある日、アンヌ先生は、強制収容所の生存者レオン・ズィゲルという人物を授業に招待する。大量虐殺が行われた強制収容所から逃げ出すことができた数少ない生き証人の悲惨な状況を知った生徒たちは、この日を境に変わっていく。

(作品ホームページから抜粋)

私の映画 KAN

「標的の島 風かたか」

沖縄の文化と戦争の記憶を土台に、おじいとおばあ表情や言葉の一つ一つが心にしみる。日常のニュースでは、知ることのできない沖縄辺野古・宮古・石垣でのたたかい。全国から 1000 人の機動隊が投入され、負傷者も逮捕者も

出しながらもたたかい続ける高江。ほとんど知らなかった沖繩が描き出されている。2016年にうるま市で起こった元米海兵隊員による女性暴行殺害事件の追悼集会で、稲嶺名護市長が使った言葉「我々は、今回もまた命を救う『風かたか』になれなかった」。(『風(かじ)かたか』とは、風よけ・防波堤のこと)。二度と犠牲者を出さないとの思いが古謝さんの歌とともに切々と訴えかけてくる。これを書いているときに、またもや高江に米軍ヘリ不時着炎上。犠牲者が出なかったとはいえ、原因説明ないまま飛行再開され、日々不安な生活を強いられる住民の方の気持ちを考える



るとたまらない。現状を知ること、平和と民主主義を考える第一歩してほしい。「標的の村」「戦場ぬ止み」に続く、三上智恵監督のドキュメンタリー第3作目。

■題名／標的の島 風かたか
■監督・ナレーション／三上智恵

■2017年、日本、119分
(山本和美)

訃報

加古川シネマクラブ創設時からのメンバーで、代表委員の津村晴子さんが、10月25日にくも膜下出血のため急逝なさいました。ご冥福をお祈りするとともに、会員の皆様にお伝えいたします。

代表委員 津村晴子さん 逝去に寄せて

津村晴子さん、あまりにも早い旅立ちで私たち運営委員一同言葉ありません。最初の出会いは、2002年5月22日の設立総会でした。映画が大好きで、生まれ育った加古川でよりよい映画が見たいと参加してくれました。あれから15年。運営委員として、最近では代表委員として一緒に歩んでくれました。新聞やラジオの取材に積極的に取り組み、会員を増やすために努力していただきました。運営委員会では、映画だけでなく子供の話、職場の話、高野山での修行の話と語りつくせないほどたくさんお話をしましたね。加古川の情報にも詳しく、いつも頼りにしていました。

いつもひたむきで、一生懸命だった晴子さん。15年間、本当にありがとうございました。

加古川シネマクラブ、あなたの前向きの姿に負けないようこれからも、よりよい映画を楽しみにしているみなさんと一緒に続けていきましょう。(山本和美)

前回例会の報告

9月13日の例会は、会員外の人も観覧料を支払って鑑賞できる特別例会として、“死にゆく母と、残される家族が紡ぎだす愛”をテーマとした『湯を沸かすほどの熱い愛』

を鑑賞しました。はじめは、作品名から内容が理解しにくい印象がありましたが、家族愛のテーマと主演の宮沢りえの好演もあり、参加者からも好評を得ました。

参加会員101人、明石シネマクラブからの参加者8人、一般145人で合計約254人の参加者でした。

明石シネマクラブ第46回例会情報

■名称／

『幸せなひとりぼっち』

(2015年、スウェーデン、116分)

■解説／孤独な老人が隣人一家との触れあいを通して再生していく姿を描



いたスウェーデン発のヒューマンドラマ。世界的ベストセラーとなったフレドリック・バックマンの同名小説を映画化し、スウェーデンで大ヒットを記録した。愛する妻に先立たれ、悲しみに暮れる孤独な毎日を送っていた老人オーベ。そんなある日、隣の家にバルバネ一家が引っ越してくる。車のバック駐車や病院への送迎、娘たちの子守など、何かと問題を持ち込んでくるバルバネたちにうんざりするオーベだったが、次第に彼らに心を開くようになり、やがて妻との思い出を語りはじめる。

■監督／ハンネス・ホルム

■出演／ロルフ・ラスゴード、イーダ・エンゲボル、パハー・パール他

■日時／12月7日(木)

①PM 2:00-、②PM 4:30-、③PM 7:00-

■場所／アスパア明石 9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kalogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 136人(9月13日現在)